

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
10	小沢 映子（27）	<p>1. 性と生殖に関する健康とそれを保障する権利（SRHR）～自分の体のことを自分で決められる社会を～</p> <p>セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）とは、人々が自分自身や家族を含めた社会全体の中で自己決定ができ、安全で健康的な性生活を送り、妊娠や出産、性感染症などの健康上の問題に対処するために必要な情報やサービス、支援を受けられることを保障することを目的とした概念である。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の性の在り方について自由に決められること。</li> <li>・性体験が安全で満ち足りたものであること。</li> <li>・子供を産むか、産まないか、いつ、何人持つかを自分で決められること。</li> </ul> <p>この概念は、1994年にカイロで開かれた国際人口開発会議で初めて提唱された。</p> <p>女性がこの権利を享受するには、男女の平等な関係と共同の意識、女性の自己決定の力が前提になる。しかし、全ての人々がセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルスの権利を十分享受できているか、私たちの周囲を見渡すと、そうとは言い難い現状がある。</p> <p>そこで、以下質問する。</p> <p>(1) SRHR（性と生殖に関する健康と権利）が提唱されて28年たつが、富士市での認知度はどうか。</p> <p>(2) 性と生殖に関する健康を権利として保障するために、富士市ではどのようなサポートが受けられるのか。</p> <p>(3) 日本では、性教育の遅れもあり、子供や若者の「性」に関しては課題だらけであると指摘されている。アダルト向けの誤った情報が多いことや、親や学校が相談しやすい環境ではないこと、性感染症やデートDV、望まぬ妊娠や同意なき性関係のトラブル、性自認や性的指向に関しての悩みによる鬱や自殺が多い。</p> <p>これらの課題に対してどのような支援を受けられるのか、またどのような支援が望まれていると考えるか。</p> <p>(4) 政策決定に関わる女性が少ない現在の行政の状況で、真に女性の尊厳が脅かされないまちにできると考えるか。</p>	市長 及び 教育長 担当部長